

広報

やまと

7月号

2012 No.222

特集

ユイの心をカタチに。

～大和村地域支えあい体制づくり事業～

もくじ

- 02-09 特集：ユイの心をカタチに。
- 10-17 村の話題：召し上がりました？初夏の味、ほか
- 18-19 お知らせ：就業構造基本調査を実施、ほか
- 20-20 連載：野山の旬、ほか

オレンジリング運動による認知症サポート

特集

ユイの心をカタチに。

〜大和村地域支えあい体制づくり事業〜

大和村は奄美大島の中心に位置し、東シナ海に面したリアス式海岸と急峻な山々に囲まれた村です。人々はわずかな平地に耕作地を求めて集落を形成。厳しい自然環境の中、『ユイの心』で助け合って暮らしてきました。

『ユイ（結）』とは、農作業や屋根の葺き替え、冠婚葬祭等、親族間やシマ（集落）で労働を提供しあう無償の行為（『ユイワク』とも言います）。

相互扶助の精神を表すこの言葉は、平成22年の奄美豪雨災害時に住民同士が助け合い災害弱者を救ったことから、奄美の人々の優しさや集落民の絆の深さを象徴する言葉として幾度となく語り継がれていました。

また、ユイの心は災害時のみならず日常においても子育てや防犯、地域活動に生かされ、コミュニティを維持する源となっています。

しかし、ユイが地域の問題をすべて解決する『魔法の杖』や『打ち出の小槌』でないのも事実です。

近年、法制度の改正により、在宅の高齢者や障害者への福祉サービスは飛躍的に充実しましたが、公的サービスが優先されることで、これまで家族や近所同士が自発的に担ってきたユイが薄れてしまい、日常の困りごとが解決されないケースが増えています。

困っているにもかかわらず「周りに迷惑をかけたくない」という思いから支援を申し出ることができず、また見守る側も「手助けしたいが触れてよいのかかわらない」と、結果的に放置されるケースがあり、せっかくのユイの心が日常の福祉に生かされていません。多くの人が「必要とされたら手助けをしたい」と、思っているにもかかわらず、お互いの意思表示がないために思いが伝わらないような気がしてなりません。

今後、人口減少や高齢化が進む中、住みなれた地域で安心して暮らしていくためには、人々の心の中にあるユイの心をはっきりと目に見えるカタチに

し、誰もが気兼ねなく支え合う生活支援サービスの仕組みづくりが必要ではないでしょうか。

大和村保健福祉課では、鹿児島県地域支えあい体制づくり事業（以下『支えあい事業』）を活用し、平成23年度から地域単位での支えあい活動を行う団体の立ち上げ支援を行っています。

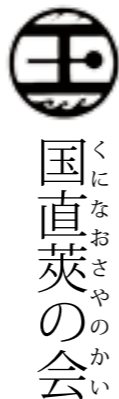
昨年度同事業について各集落に募集したところ、『国直菜の会』をはじめ、『湯湾釜ハッピースマイル』、『大棚結の会』、『名音アィダの会』の4団体が応募。それぞれ各地域の特性を生かした事業を展開しています。

奄美大島は、シマジマ（各集落）が多様な地域性を有していますが、今回同事業に応募した大和村の4つの団体もそれぞれ個性的な集落の特徴を持っています。地域資源を活用し、ユイの心で福祉や地域興しに奮闘する人たちの活動を追いました。



国直菜の会事務所（定例むっちょ〜れ市場）

ナツカシヤ味でシマ興し



国直産ジマメ（落花生）の水煮



畑に水をまく菜の会の会員



情報マップづくり。子供たちと共に認知症について学びました

菜の会ブランド「あかとんぼ」



国直集落（村上恵子区長・56世帯）は村の東端に位置し、国定公園宮古崎や国直海岸など景勝地を有していることから、観光客や交流人口の多い集落です。また、集落の人口構成が子供からお年寄り世代まで遍在しており、高齢化率（65歳以上の割合）が20%と村で最も低いのも特徴でしょう（村36%）。

その一方、高齢者の趣味や余暇活動があまり活発とはいえず、憩いの機会や場所が十分ではありませんでした。以前は盛んに行われたゲートボールも現在は行われなくなり、老人クラブの加入率も低下しています。

そのような中、農政代さん、重照代さん、村上恵子さんの3名の女性が中心となって支えあい活動を目的とした国直菜の会（農原政代代表・以下『菜の会』）を設立しました。菜の会は旧ガソリンスタンドの空店舗を誰もが気軽に立ち寄る事の出来る憩いの館に改修したのを手始めに、①声かけ健康づくり（農原さん担当）②手芸品制作販売（重さん担当）③農産物生産販売（村上さん担当）の3部門の活動を始めました。

菜の会の運営は一人のリーダーに負担をかけることなく、それぞれの得意分野で出来ることを分担し、楽しみながら実践するというスタンス。

民生委員を務める農原さんは、かねてから高齢者宅を巡回し声かけを行ってきた経験を生かし、住民の身体や生活情報を記載した集落マップを作成。情報の共有化を図りました。

裁縫やパッチワークが得意な重さんは、端切れを利用してストラップやコースター、テーブルクロスなどの手芸品の製作指導を行っています。菜の会で作る商品は『あかとんぼ』のブランド名で販売。アマミノクロウサギのストラップ『くーちゃん』は大口注文を受ける程のヒット商品となっています。

また、村上さんが担当する農産物生産部門では、島ラッキョウとジマメ（落花生）の苗を各農家に配布して栽培をお願いするとともに、集落内にある休耕地を耕し共同農地を整備しました。

村上さんが島ラッキョウとジマメの2品種に着目した理由は、これらが古くから国直で栽培され、食べ親しんだ郷土の食材であったから。高齢者が懐かしい味を思い出しきつと栽培意欲が沸くに違いないと考えました。

植え付けが始まりしばらくして畑に行くこと村上さんの思いは的中していました。それまで農作業に興味を持たず、家に閉じこもりがちだった高齢者のご近所の方と楽しそうに農作業をしていたのです。農作業で適度な運動を行い、仲間との交流は心身ともにリフレッシュすることでしょう。なにより毎日顔を合わせることで見守り効果が生まれました。

菜の会では1年目の成功をもとに、今年度は『塩ラッキョウの漬け物』や『砂煎りジマメ』の加工品を集落ブランドとして生産・販売すること。ナツカシヤ（懐かしい）シマの味で展開する地域興しに期待が広がります。

アンのキモチ!

YuWangama
Happy Smile

「お年寄りや容量に気を使っているよ」とのこと。
先日、ハッピーSが主催する土曜市を訪ねると12戸の農家から30品種上の農産物が売り場を賑わせていました。メンバーがいつもの場所へ到着すると開店前から数人の顧客が待ち構え、陳列前から商品の品定めをして買い求める姿が。販売担当の蔵利喜子さんによると、「出品する農家のみなさんも品ぞろえや容量に気を使っているよ」

湯湾釜集落の高齢者のみなさんは、労働の対価として収入を得ることに、いつまでも誇りを持ち、農業に生きがいを感じていることでしょう。そしてハッピーSの活動を通じ高齢者と若年層が共通の目的のもと交流が深まっています。ハテワク（農作業）はシマを元気にする源です。湯湾釜ハッピースマイルの活動は過疎の村における地域興しの方向性を示しています。



土曜市販売員の松田美和子さん元平栄子さん蔵利喜子さん蔵野々夏さん

売り場はワンコイン（百円）の商品ですがどれもきれいな梱包でたっぷりの容量。お買い得感満載でした。また、ハッピーSのメンバーは販売の合間を塗ってメモを片手に近くのスーパーへ買い物に行く姿が。何でも車を持たない高齢者達から生活用品の買い物を頼まれているとのこと。お互いに気兼ねなく頼み事を任す（任される）買い物代行サービスにハッピーSの活動の原点を見たような気がしました。農産物の収集販売を増やし順調に見えるハッピーSですが、メンバーには気がかりな点がありました。それはお年寄りの中に農業を辞める方が出てきたこと。ある日お年寄りに理由を尋ねると「農業は好きだけど、畝上げなどの重労働が一人では出来ないの仕方なくやめてしまった」とのこと。ハッピーSは、このような営農意欲があるにもかかわらず農業を続けることが出来ない高齢者の手助けをしようとする策を検討。タイミング良く村の支えあい事業の補助金を活用することができ畝上げ機を購入しました。機械を使って青壮年団が農作業の代行サービスを行うことにより、農作業の負担が軽減。離農していたお年寄りが畑に戻ってきました。



蔵久子さん・福田スヤ子さん・東條ナツさん（湯湾釜無人販売所）
「料金は必ず所定の料金箱に入れてください」とのお願いです。

特産のスモモをはじめ、トツツプル（島南瓜）やシマウリ（島胡瓜）といった島野菜から、ズッキーニやモロヘイヤといった洋野菜まで多品種の生産に取り組んでいます。これらの多くは県道に面した「湯湾釜なかよしグループ無人販売所」へ出品。同販売所は新鮮な食材がワンコイン（百円）で手に入るとあってとても好評です。しかし、残念なことに無人販売所では正規料金が支払われなかったり、商品や料金が盗難される事件が発生し、生産者の出品意欲を削ぐ事態に陥っていました。

着実な販売実績を重ね信用を得た土曜市ですが、蔵さんは幅広く継続的な活動を行おうと、集落民、特に若い世代を取り込んだ組織作りを模索。平成23年に湯湾釜ハッピースマイル（蔵正代表・以下『ハッピーS』）を設立し、販売代行をはじめとする自身の活動を同団体へ引き継ぎました。



ハテワクでシマを元気に!



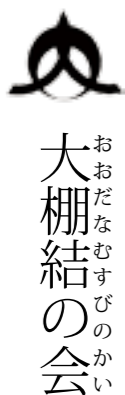
ゆわんがま
湯湾釜ハッピースマイル

湯湾釜集落（元継男区長・50世帯）は農業が盛んな集落。多くの高齢者の皆さんが毎日元気にハテワク（農作業）に出かけます。栽培する作物は大和村

そこで、湯湾釜集落で農業を営む蔵正さんが安定的な農産物の販売と農業収益の増加を目指し、3年前から農産品の収集と販売の代行を始めました。蔵さんは毎週土曜日に農家から野菜を収集。奄美市名瀬の商店街で露店を開き農産物を販売しました。たかだか一坪程度の売り場の『土曜市』でしたが、安価な新鮮野菜が評判を呼び、毎週継続することによって多くの顧客を獲得しました。



集落の共同売店がユライ所



大和村の中心に位置する大棚集落(前田清和区長・161世帯)は、村内で最も人口の多い集落。敬老会や豊年祭、八月踊りなど集落行事が活発で、人々の結束が強い集落として知られています。

そんな大棚集落の結束のシンボルといえるのが村の共同売店、大棚商店(川下八重子社長)です。大棚商店は大棚から名瀬へ薪を搬出していた頃、帰りの船に食料や生活必需品を積み込み集落で販売したのが始まりとされます。大正3年に大棚購買組合として設立し、昭和36年には集落民が出資し株式会社となりました。

食料品から酒類、たばこ、日用品、農工資材、燃料まで、生活必需品は何でもそろそろ豊富な品揃えが自慢で、災害時には幾度となく備蓄基地としての役割を果たしてきました。

また、ヒトとモノが行き交う大棚商店は集落民のコミュニケーションと情報交換の場所でもあります。

「どうかさしもんじや(お元氣ですか)?」の一言から毎日の暮らしやご近所の様子など、たわいもない会話の中に地域弱者を見守るための重要な情報がいり取りされます。

このような、集落民の心のよりどころである大棚商店を拠点として地域支援あい活動を行おうと、平成23年に大棚結の会(川下八重子代表・以下『結の会』)が発足しました。

結の会では、大棚商店をユライ所(憩いの場)にして人と情報を滞留させようと売り場にテーブルセットを設置。住民の声を聞くとともに、困りごと対応チームを結成しました。するとさっそくお年寄りから台風時の暴風対策の申し出があり、担当が要望に応えました。



大和まほろば館でのお総菜づくり

さらに、結の会では買い物代行サービスの際にお年寄りからお総菜の注文が多いことに着目し、独自で総菜を調理し販売できないか検討を重ねました。高齢者世帯にとって毎日の調理は負担が重く、集落内での需要は大きいと感じていました。また、地元で収穫される作物の中には廃棄される物があり、野菜の有効利用も見込まれました。さらには、加工施設『大和まほろば館』が整備されたことにより、効率的な調理が可能になったことも会の活動を後押ししました。

結の会は昨年12月から、毎週月曜日と木曜日の週2回、少量・多品種のお

総菜の販売を開始。栄養バランスに配慮し地元食材をふんだんに使用したお総菜が百円均一で購入できるとあって、大棚商店には集落内外からお客が殺到。あつという間に陳列棚が空になるほどの好調な売れ行きです。

川下代表は「夫婦もしくは一人世帯で料理を作るより結の会のお総菜を買う方が安価で楽でしょう。栄養のバランスにも配慮しているし定期的にメニューも変えているので好評ですよ」と語りました。さらには、宅配や移動販売も視野に入れた活動を展開する予定とか。

結の会の影響や経営努力により、昨年の大棚商店の経営は数年ぶりの黒字を計上。株主には配当として生活雑貨が支給されました。

大型スーパーの出店が相次ぎ、インターネットでの通信販売がもてはやされる時代にあつて、なぜ大棚商店は成功したのでしょうか。それは利用者が商店に『ユイ』を持ち寄り、商店は利用者から『安心』を提供しているからではないでしょうか。

結の会は大棚商店にある『ユイ』と『安心』を最大限活用し、地域産業の活性化と地域支え合い活動を同時に成し遂げようと奮闘しています。

どきどき人がどきどきする時どきどきする事を

名音の 名音テイダの会



黄色い旗見守り運動で掲げられる小旗

名音集落(勝三也区長・110世帯)は村の西部に位置し、豊かな森と海に囲まれ、農林水産業が盛んな集落。他の集落同様に少子高齢化が進んでいますが、『むつみ会』(名音集落における老人クラブの別称)による高齢者の余暇活動が盛んな地域でもあります。

また、名音集落では2004年から『黄色い旗見守り運動』により地域支えあい活動を行ってきました。黄色い旗見守り運動とは、高齢者が起床時に自宅の軒先に黄色の小旗を掲げ、就寝前に小旗を取り込むという運動。「旗が出ているかしら?」、「夜になっても出さばなしになつていないかしら?」と、近隣の人々が高齢者を注視し見守ってきました。

黄色い旗運動は集落をあげて取り組んだことにより地域全体の安心を生み、また高齢者も周囲に見守られることを意識することによって集落民の連帯感が深まりました。

このような地域に根ざした支えあいの心をカタチにしようと平成23年に集落の有志達が名音テイダの会(納教芳会長・以下『テイダの会』)を設立しました(テイダ・方言で太陽の意味)。

テイダの会の主な活動は、①共同喫茶店の営業、②散髪サービス、③庭の手入れや畑仕事の代行、④入浴の介助の4項目。

会のモットーは「出来る人が、出来る時に、出来る事をする」ということで、だれもが自発的に行動しボランティアを行っています。

他の地区の支えあい活動にも共通していることですが、テイダの会では部門ごとに『お得意さん』が役割を分担し、それぞれの活動に取り組んでいます。



大棚結の会お総菜づくりグループの皆さん(大棚商店前にて)



名音ティダの会の喫茶店『のん笑談所』

コーヒーを作るのが好きな岡村健一さんが喫茶店のマスターとなりおいしいコーヒーを提供。理容師の経験を持つ坂口利明さんが外出困難な高齢者宅に出向き散髪を行います。そして、農家の勝三千也さんが使い慣れた草刈り機で高齢者宅の庭の手入れを行い、現役ヘルパーの國副ユキヨさんが体の不自由な方の入浴介助を考えるなどの応援態勢をつくっています。それぞれが負担とならない程度の活動で持続可能なサービスを提供しています。

そんなティダの会のサービスの中で、最も喜ばれているのが、毎週土曜日にオープンする喫茶店『のん(名音)笑談所』でしょう。集落民が開店を心待ちにしているという笑談所を訊ね、お話を伺いました。

のん笑談所は個人の所有する倉庫をティダの会が借り上げて改修した喫茶店。家具や電化製品、食器などを各々から持ち寄り営業にこぎつけました。

店の『マスター』こと岡村健一さんが作るコーヒーは厳選されたコーヒー豆を使用した本格的な味わい。実は岡村さん、Iターンで身寄りがないうえ、最近奥様に先立たれ一人暮らし。奄美の方言がわからないこともあって以前はご近所とのつきあいが疎遠になりが

ちだったとのことでした。しかし、来客者においしいコーヒーを振る舞うと評判で、ティダの会から「ぜひ喫茶店のマスターに」とお願いしマスターに就任して頂いたとのこと。今では「マスターとお話するのが楽しみ」と店に通うファンもいるらしくお店の顔となって活躍しています。

また、喫茶店の『ママ』こと、重野弘乃さんが用意するお茶受けが好評で、この日もスモモのゼリーやグロッセ、白玉ぜんざい、旬のイカ味噌など絶品料理を振る舞ってくれました。さらには来店者からの差し入れもありテーブルは色とりどりの料理が並びます。

開店早々多くの村人が来店する笑談所ですが、常連さんが見えないのに気づいた重野さんは自宅に訪問。すると常連の女性は膝の調子が悪く今日はお店に行けないとのこと。重野さんはデリバリーでコーヒーとお菓子を届けました。重野さんの心遣いとサービスこそ笑談所の真骨頂でしょう。

店に戻ると来店者がBGMの新民謡に併せて歌い手踊りをする風景がありました。『笑談所』の店名のとおり笑いの絶えない喫茶店です。

これからもティダの会の支えあい活動から目が離せません。

「30年先の日本のモデル」

大和村保健福祉課



村保健福祉課職員と早川保健師(左から4人目)

国直にはジマメという伝統食材があり、湯灣釜には蔵正さんという農産物を集め販売する人がいました。大棚には大棚商店という地域に根ざした拠点があり、名音には黄色い旗見守り運動が展開されていました。保健福祉課の進める支えあい事業は新たな取り組みを行政が押しつけるのではなく、特色ある地域の資源に着目し、目標を具体化する動機づけと資金を提供。そこに住む人たちの手によって支えあいのシステムをカタチにしました。そして最後に早川さんはこう付け加えました。

「大和村の人口は1765人(2010年国勢調査)。50年前と比較すると1/3に減少しています。さらに65歳以上の人口は全体の36%を占め、高齢化率で比較すると大和村はすでに鹿児島県の20年先、全国の30年先というレベルに達しています。つまり30年後の日本に訪れるであろう『人口減少・超少子高齢社会』に私たちは直面しているのです。支えあうための担い手世

「二連の流れで私たちが大切にしてきたことは、行政が住民に示すのではなく住民と一緒に考えるという関係、そして『住民力』をとことん応援する姿勢でした。目指す社会はそこに暮らす人々が動かないと創れません。住民自身が現実を知ることで行動の必要性を感じ、共通の目的を明らかにしてこそ本道の住民主体の動きが展開されると考えたからです。」

大和村における支えあい事業は優れた事例として村外からも高い評価を受けています。事業に取り組んだ経緯やこれからの福祉のあり方について同事業の『仕掛け人』でもある村保健福祉課の早川理恵保健師に話を聞きました。

「大和村の行った実態調査では、高齢者の8割近くが最後までシマに住みたいと希望していますが、現実的に最後まで住んでいる人は2割程度。残りは施設入所か島外の子供の所へ転出してしまいます。その理由は、介護をしてくれる人がなく、シマでの生活が不便だと諦めてしまっているからです。最後までシマで暮らすという希望を叶えるためには『迷惑かける時がきたらお願いします。その代わり私が今出来ることをがんばるから』と伝えることが出来なければならぬと感じました。地域は『お互い様』の世界です。人は支えあってこそ生きられます。そのためには本人、家族、周囲のみんなを支えるシステムづくりが必要なのです。」

実はこれまでも、大和村では地域サロン(憩いの場)づくりやボランティアーリーダーの育成など支えあい体制づくりを行ってきましたが、思う様な成果は得られませんでした。今回の事業を進めるに当たり早川さんはこうも述べています。



「だれもが最後まで家族と共にシマで暮らしたいと願う」

「召し上がりました? 初夏の味。」



大和村初夏の味覚、スモモ（奄美プラム）の2012シーズンが終了しました。

今期のJAによる出荷は、5月28日から6月16日までの19日間に渡り行われました。湯湾釜選果場で開催された出発式では、大和村果樹振興会蔵秀生会長が「今年のスモモは美味しいと自信を持って提供できます。これからもいっそう消費者に喜ばれるスモモの生産に励みます。」と決意を述べました。

今年産のスモモは昨年5月の台風や9、11月の豪雨災害により樹勢が弱まり減産傾向にありましたが、食味は例年どおりの糖度と酸味を維持。島内外の市場へ出荷されました。

JAあまみながまとめた2012年度の共販実績によると、今期の取扱量は43トン（前年比4トン減）、販売額は1621万円（前年比149万円増）。今期の販売目標であった30トン、900万円を量、額ともに上回りました。

大和村での実績は、取扱量が35トン（前年比1トン減）、販売額は1291万円（前年比187万円増）でした。

今期は生産が追いつかず、市場や消費者からの注文に十分答えることができなかったとのこと。今後、要請数量、時期に対応できる数量確保に向けた体制作りが大きな課題となりそうです。

天日干し始めました!

加工品のバラエティーが豊富なスモモですが最近のヒット商品は何と言っても「スモモのセミドライフルーツ」。

シロップを加えて、煮詰めては冷やし、煮詰めては冷やしを繰り返して、夏の強い日差しの下二日間天日干し。太陽の恵みをギュッと詰め込んだ一品です。濃ゆい甘味と爽快な風味は生食に勝るとも劣らない味です。

まほろば大和生活研究グループ（泉美保子代表）では今年度産スモモ3トンドライフルーツ様に確保。空模様を見ながら8月いっぱいまで天日干し作業が続きます。

スモモのセミドライフルーツは1袋150グラムで500円。問い合わせ、お求めは大和村まほろば館または大和村産業振興課まで。

□大和まほろば館

住所：大島郡大和村大榎

電話：099715712980

営業：午前9時～午後6時

□大和村産業振興課

住所：大島郡大和村大和浜100

電話：099715712153

営業：午前8時30分～午後5時



村の話題

《郡体》

第66回県民体育大会・

第53回大島地区大会が、

7月14・15日を中心に

奄美大島郡内の12市町村

において開催されまし

た。本村からは全22種目

のうち9種目に81人が参加。日頃の練習

の成果を発揮し全力プレーで大会を盛り

あげました。

本村にて行われたラグビーフットボー

ル競技において大和村チームが2年連続

3回目の優勝を果たしたほか、ソフトボ

ールや陸上競技で上位に食い込む活躍を

見せました。

連日炎天下での競技でしたが、選手の

皆さんは本当にお疲れ様でした。

なお、大会結果は次のとおりです。

ラグビーフットボール 1位

ソフトボール(男子) 3位

水泳(男女総合) 4位

バドミントン(女子) 7位

軟式野球 9位

ゲートボール 9位

グラウンドゴルフ 9位

ゴルフ 11位

陸上競技

高校走り幅跳び 福島秀太 1位

30代100m 宮田龍 3位

400mリレー (森信之助・福永

純一・伊集院将・川下誉) 3位

第66回県民体育大会 第53回大島地区大会 開催

7人制ラグビーフットボール競技

2年連続3回目の優勝

7月14・15日に本村の奄美フォレスト
ポリスふれあい広場において第66回県民
体育大会・第53回大島地区大会・ラグビ
ーフットボール競技が開催され、大和村
チーム(川下誉監督・勝栄一朗主将)が
昨年引き続き3回目の優勝を果たしま
した。

同競技は15人制ラグビーと同じ広さの
グラウンドを使用し7人でプレーするも
の。大会には群島内から5チームが参加
し、総当たり戦で熱戦が繰り広げられま
した。会場には地元大和村チームを応援
しようと多くの村民が集まり、中には「生
でラグビーを見るのは初めて」という女
性も。

大和村チームは初戦の強豪、奄美市チ
ームとの対戦で開始早々トライを奪い終

始優位にゲームをコントロールし、21
7で快勝。続く試合も持ち味の堅守・速
攻を發揮。瀬戸内町に42-0、龍郷町に
24-12、知名町に32-0と全勝で優勝を
決めました。

永らく大和村チームで中心選手を務め
る元田豊春さん(32歳)は、「多くの観
客が見守る中、地元開催で初めて優勝で
きたことを誇りに思います。選手たちが
いつも笑顔で声掛けあってプレーできた
ことが勝因だと思います。」と、喜びを
語りました。

なお、鹿児島県大会への出場選手につ
いては、今大会の内容を参考にして地区
ラグビー連盟が決定すること。一人
でも多くの本村選手が選考され県大会で
活躍することを期待します。

見事優勝した大和村ラグビーチーム



陸上競技に出場した選手のみなさん





簡易タンカを使用した資機材訓練



急ピッチで復旧作業を進める災害現場



災害現場でバスを乗り換え登校する高校生たち

災害時は「訓練を想定して冷静に行動」、 訓練時は「災害を想定して真剣に避難」。

県道が4日間全面通行止め ～主要地方道名瀬瀬戸内線・国直地内～

奄美北部では6月9日から10日にかけて活発な梅雨前線の影響により非常に激しい雨に見舞われ、主要地方道名瀬瀬戸内線（県道）国直・根瀬部間で土砂崩れが発生しました。同箇所は平成20年奄美豪雨災害時に法面が崩壊し復旧工事を行った現場で、当時も数日間に及ぶ通行止めとなり、大和村が孤立するという苦い経験をした箇所です。

県道は奄美市名瀬と大和村を結ぶ最重要生活道路でもあり、村は直ちに林道大名線を利用した迂回路を設定。看板の設置や雑草の伐採などの道路整備を行いました。

また、路線バスについては災害箇所付近でバスを乗り換えるシャトル運行を実施。乗り換え地点では300メートルほど移動するうえ工事中の急な階段を昇るため、村職員が通行の誘導を行い利用者の安全を確保。乗り換え地点では高校生達が階段を上り学校へ向かう姿が見られました。

13日には一部の土砂が除去され4日間に及ぶ全面通行止めが解除。利用者は通常より30分も時間を要する迂回路通行から解放されほっとした様子でした。県道の国直・根瀬部間は奄美豪雨災害時に大小11カ所で災害が発生し、災害時に村内全域が孤立する恐れがあることからトンネル化を要望する意見が多く、これまで国直集落をはじめ大和村や大島地区南部議員大会においても鹿児島県へのトンネル整備の要望を行ってきました。

大和村においても、同地区のトンネル整備に対する要望の高まりや、交通インフラの整備は本村の定住促進や村の活性化のための最重要課題であることから、「大和・名瀬地区間県道整備促進検討委員会」を設置。7月30には第1回委員会を開催し、奄美市との協議会発足に向けて準備を進めています。今後は、村民への周知や奄美市在住の村出身者との意見交換を持ちながら関係機関と調整を行っていきます。

村内全域で902人が参加

～豪雨災害を想定した防災訓練を実施～

5月27日、村内全集落を対象とした大規模な防災訓練が行われ、村民の他に大島地区消防組合職員や奄美警察署署員、名瀬測候所職員など合わせて902人が訓練に参加しました。

防災訓練は、昨年10月に地震・津波を想定して行われた訓練に続き2回目の開催。今回は豪雨災害により浸水被害や集落の孤立、ライフラインの寸断に陥ったとの想定で行われました。

訓練は午前8時に開始。奄美北部に大雨洪水警報が発令されたという想定のもと、役場では災害対策本部を設置。午前9時45分に村内全域に防災無線で避難勧告を発令しました。

各集落では役場からの避難指示を受け避難・誘導訓練を開始し、それぞれ真剣な面持ちで避難所へと向かいました。

各集落の消防団員や自主防災組織は、避難所での避難状況を防災無線電話や衛星電話を使用して災害対策本部へ報告すると共に、集落内に逃げ遅れた住民がいなか全世帯を確認してまわりました。

また、各避難所では断水、停電という想定のもと婦人会が炊き出し訓練を実施。備蓄水や薪を使用して米を炊き、カレーや豚汁を調理しました。

このほか、奄美警察署は湯湾釜地区と大棚地区の二班に分かれ災害訓練を行い、要援護者の安否確認や簡易アンテナの設置、衛星電話の通信訓練等のほか、集落民に対しシャツやスポンを使用した簡易タンカの作成方法など害救助講習を行いました。

2010年の奄美豪雨時には避難所に避難してきた住民のほか、幹線道路の寸断により足止めされた人々が集まり、集落民は温かい食べ物を提供して励ましました。このような教訓から人々は、災害時の避難や炊き出し手順について確認し、日頃から物心共に災害時に備えようとしていました。

なお、避難訓練後のアンケート調査では多くの参加者からご回答頂きました。貴重なご意見として今後の参考とさせて頂きますと共に、分析の後に村民の皆様へご報告させて頂きます。

ぜ〜んぶ美味しく頂きました〜！

大棚小スモモ加工教室

6月13日（水）、大棚小学校（山之内和英校長・児童27名）で、大和村の特産品スモモを使ったスイーツ作りが行なわれました。スモモの料理教室は食育を通じて地域食文化の理解と自然の恵みに感謝することを目的として毎年行われ、児童たちが楽しみにしている恒例行事のひとつ。今年は、まほろば大和生活研究グループ（泉美保子代表）から5名の先生を招き、ジュースとジャム、ゼリー作りに取り組みました。

調理は、①炊飯器で加熱したスモモを茹で砂糖を加えた煮汁でジュースを作る、②茹でたスモモの種を取り砂糖を加えながら煮てジャムを作る、③ジュースに砂糖とアガー（ゼリーの素）を溶かしたお湯を加え冷やし固めてゼリーを作る、というもの。

5、6年生の児童達は低学年のちびっ子達の面倒を見ながら全員で料理に奮闘。スモモの種を取る工程で

は、種のまわりに付いた果肉をほおぼり「甘ぁ〜い」と歓声を上げる場面も。

ジュースとジャムはちょっぴり味見をした後容器に詰めてそれぞれ自宅へ持ち帰り、ゼリーは冷蔵庫で冷やして昼食のデザートで頂きました。大棚小のみなさんいつまでもふるさとの味を忘れないで下さいね。



じいじとばあばと一緒に作ったよ！

名音小ガヤマキ体験

6月1日（金）、名音小学校（井上正美校長・児童7名）で、集落の老人クラブむつみ会（宮島吉盛会長・会員70名）のみなさんと名音集落に伝わる「ガヤマキ」作りに挑戦しました。

ガヤマキとは蒸した餅米をガヤ（チガヤ）で包んだ魔除けの飾りで、ゴガツゴンチ（旧暦5月5日端午の節句）に男の子の無病息災を願って作られます。

ガヤマキは奄美大島南部を中心に伝わる旧習ですが近年は多くの地域で途絶えています。名音集落でも永らく行われていませんでしたが、むつみ会のみなさんと名音小学校が地域の伝統を子供たちに伝え、郷土の文化に誇りを持ってもらおうと20年前から取り組み始め、今では名音小の大事なイベントとして定着しています。

この日はガヤマキの歴史やゴガツゴンチの伝統を学び実習を開始。餅米の大きさやガヤの結び方、紐の長

さなど出来映えの異なるガヤマキができあがりでしたが、「ガヤの形は違ってどれも本当のガヤマキです。周り違って個性があつていいのですよ。」と話してください宮島会長の言葉が印象的でした。

子供たちはガヤマキ作りを通して高齢者のみなさんとのふれあいや地域の伝統文化を学びました。



「さ〜さ〜のは〜さ〜らさら〜♪」

大和保育所・七夕飾り

7月7日の七夕を前に、大棚保育所（園児8名）の園児たちが大和診療所（大和村大棚）を訪れ、診療所のロビーに手作りの七夕飾りを飾りました。

3メートルほどの竹には、自分たちで折った折り紙や飾りとともに短冊が結ばれ、短冊には「イチゴのケーキ屋さんになりな〜（前田あいらさん）」や「大きくなったらかっこいいお父さんになりたい（杉島やまとくん）」、「アンパンマン大好き（河野ひゅうがくん）」などそれぞれの願い事ごとが書かれていました。七夕を設置した後は、「さ〜さ〜のは〜さ〜らさら〜♪」と園児全員で七夕様を合唱しました。

このほかにも大棚保育所の園児のみなさんは、父の日のお父さんの似顔絵や、母の日のお母さんの似顔絵、クリスマスツリーなど機会を得ては診療所に展示しています。診療所をお越しの際にはどうぞご覧になってください。



交通ルールを守って連続の優勝！

大和小学校・子ども自転車大会

7月1日、鹿児島市の運転技能向上センターで開催された第47回交通安全子供自転車大会鹿児島県大会に出場した大和小学校（晨原弘久校長）6年生のみなさんが大和村役場へ来庁。村長、教育長に大会結果を報告しました。

同大会は子どもの自転車事故抑制対策の一環で自転車安全利用の啓発を図るもの。大島地区予選は6月9日に龍郷町のりゅうゆう館で行われ、奄美大島内の小学校4校（小湊・緑が丘・龍瀬・大和）の8チームが出場。道路標識や交通ルールに関する学科テストと自転車運転に関する実技で技を競いました。大会は大和小の皆さんが昨年に引き続き優勝し、大島地区の代表として県大会への出場しました。

児童達は放課後や休日にも熱心に学科試験の勉強や実技の練習をこなし本番に挑みました。大会結果は4位

と惜しくも入賞を逃しましたが昨年（7位）から着実に順位を上げました。

報告に訪れた児童達に対し泉有智教育長は、大会での健闘をたたえと共に「大会に参加した人たちは大和小においても自転車の安全運転のリーダーになるよう期待しております。」と語りました。



就業構造基本調査を実施

総務省統計局では、10月1日現在で就業構造基本調査を実施します。この調査は、国民のふだんの就業・不就業の状態を詳細に把握することにより、雇用政策を始め、経済政策などに必要な基礎資料を得ることを目的に実施します。

調査の対象は、我が国の全世帯のうちから統計的手法により選定した約47万世帯に、ふだん住んでいる15歳以上の世帯員約100万人です。

統計調査員が調査世帯へ調査票の記入のお願いに伺った際には、調査票へのご記入をお願いいたします。就業構造基本調査により集められた情報は、「統計法」という法律により厳重に保護されますので、安心してありのままをお答えください。

◆お問い合わせ先
大和村役場 総務企画課
TEL(0997) 57-2111

就業構造基本調査

平成24年10月1日



大和村入札情報をHPで公開

大和村では、村発注の公共工事の入札執行状況についてホームページにて掲載しています。

掲載内容は、入札日、入札名、予定価格、入札者、入札価格、落札者、落札価格など。平成22年度以降の入札について月ごとに掲載していますのでご覧下さい。また、今後も、ホームページを含めた積極的な情報公開に努めますので、ご要望がございましたらどうぞ役場までお寄せください。なおHP掲載コンテンツ、アドレスは次のとおりです。

ホーム↓村政情報↓予算・入札・契約情報↓入札執行状況
<http://www.vill.yamato.lg.jp/yamatoo3/yamatoo67.asp>

大和村入札執行結果表(公表用)

年度	年度	年度	年度	年度
2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
1	1	1	1	1
2	2	2	2	2
3	3	3	3	3
4	4	4	4	4
5	5	5	5	5
6	6	6	6	6
7	7	7	7	7
8	8	8	8	8
9	9	9	9	9
10	10	10	10	10
11	11	11	11	11
12	12	12	12	12
13	13	13	13	13
14	14	14	14	14
15	15	15	15	15
16	16	16	16	16
17	17	17	17	17
18	18	18	18	18
19	19	19	19	19
20	20	20	20	20
21	21	21	21	21
22	22	22	22	22
23	23	23	23	23
24	24	24	24	24
25	25	25	25	25
26	26	26	26	26
27	27	27	27	27
28	28	28	28	28
29	29	29	29	29
30	30	30	30	30
31	31	31	31	31
32	32	32	32	32
33	33	33	33	33
34	34	34	34	34
35	35	35	35	35
36	36	36	36	36
37	37	37	37	37
38	38	38	38	38
39	39	39	39	39
40	40	40	40	40
41	41	41	41	41
42	42	42	42	42
43	43	43	43	43
44	44	44	44	44
45	45	45	45	45
46	46	46	46	46
47	47	47	47	47
48	48	48	48	48
49	49	49	49	49
50	50	50	50	50
51	51	51	51	51
52	52	52	52	52
53	53	53	53	53
54	54	54	54	54
55	55	55	55	55
56	56	56	56	56
57	57	57	57	57
58	58	58	58	58
59	59	59	59	59
60	60	60	60	60
61	61	61	61	61
62	62	62	62	62
63	63	63	63	63
64	64	64	64	64
65	65	65	65	65
66	66	66	66	66
67	67	67	67	67
68	68	68	68	68
69	69	69	69	69
70	70	70	70	70
71	71	71	71	71
72	72	72	72	72
73	73	73	73	73
74	74	74	74	74
75	75	75	75	75
76	76	76	76	76
77	77	77	77	77
78	78	78	78	78
79	79	79	79	79
80	80	80	80	80
81	81	81	81	81
82	82	82	82	82
83	83	83	83	83
84	84	84	84	84
85	85	85	85	85
86	86	86	86	86
87	87	87	87	87
88	88	88	88	88
89	89	89	89	89
90	90	90	90	90
91	91	91	91	91
92	92	92	92	92
93	93	93	93	93
94	94	94	94	94
95	95	95	95	95
96	96	96	96	96
97	97	97	97	97
98	98	98	98	98
99	99	99	99	99
100	100	100	100	100

九州電力からのお知らせ 台風時の停電に備えましょう!

■ 台風時の停電情報をチェック!
台風による停電時には、電話がつながりにくくなることがあります。停電情報は下記のホームページでもご確認いただけます。
※台風等非常災害以外の突発的な停電に際しましては、停電情報はご確認いただけません。

携帯電話版ホームページ
<http://kyuden.jp>

パソコン版ホームページ
<http://www.kyuden.co.jp>

九州電力 検索「九州電力」で検索してください。

■ 停電への備え

- 強風で飛ばされるおそれがあるものは、あらかじめしっかり固定しましょう。
- 階段から分電盤の位置を確認しておきましょう。通常、分電盤は玄関・台所・脱衣所・廊下等の上部に設置されています。

停電時に必要なもの(例)

- 携帯ラジオ ■ 懐中電灯 ■ 飲料水
- 乾電池 ■ 携帯電話の充電器(電池式)
- ため水(生活用水)

■ 災害が起きたら
切れた電線を見つけたら、危険ですので絶対に触らずにお近くの九州電力へご連絡ください。

島口ラジオ体操CD発売中

6月18日、奄美島口ラジオ体操製作実行委員会(山田薫委員長・NPO法人環境教育推進協議会)から奄美群島8市町村(地域)の方言で表現する「奄美島口ラジオ体操」のCDが発売されました。

同CDは各地域ごと異なる方言でラジオ体操の号令をかけ、チジンと三味線で伴奏をするもの。
本村からは総務企画課の郁島武正課長(津名久出身)が収録しており、津名久訛りがとても聞きやすいと好評を得ています。

同CDは書店やポスターのある店で販売中とのこと。スポーツの秋を島口ラジオ体操で楽しんでみてはいかがでしょうか。



大和村広報DVDが完成

このほど、大和村では「きめこまかな交付金事業」を活用し、大和村広報用DVDを作成しました。

同DVDは、「癒しの地『まほろば』大和村」と題し、村内全集落の空撮や景勝地、施設、史跡、伝統文化、特産品等を15分程度に編集したものです。大和村の概要が一目でわかる内容となっています。

今後は、村内外でのPR活動はもとより、一般住民への貸し出しも計画しています。
研修会やイベント等にてご利用の際は、大和村役場総務企画課広報担当へお問い合わせ下さい。

大和村役場総務企画課
TEL(0997) 57-2111



島の宝

満1歳おめでとう

宮 寿雛菜さん
保護者・宮 慎一さん(湯湾釜)

みや すずな

きょうちゃんちやんと遊ぶのが大好きなすずなちゃんです。

こせきの窓

人口 1,686人(△55)
男 805人(△20)
女 881人(△35)
世帯 891戸(△13)

7月1日現在
(前年同月比)

ご結婚おめでとう

宮田衣津茂さん(今里)
長谷川 愛さん(曾於市)

お誕生おめでとう

水田 依寿さん(水田拓・思勝)

お悔やみ申し上げます

座安 武志様(57歳・国直)
鬼塚アイ子様(66歳・湯湾釜)

香典返し(社会福祉協議会へ)

元島美和子様(故元島オヤス様)
武下 里次様(故武下富良様)
奥田 静男様(故奥田初代様)
座安 勇志様(故座安武志様)

ふるさと納税ありがとうございました

山田 末廣様(愛知県)
藏満 逸司様(鹿児島市)
藏満 結花様(鹿児島市)

広報誌謝礼ありがとうございました

元野 濱子様(奄美市)
本田 鉄夫様(奄美市)

野山の



絆深まる花・ グンバイヒルガオ



濃緑のアダン林と白い砂浜。紺碧の海に向こうには「寝姿美人」こと宮古崎が横たわる国直海岸。灼熱の太陽や荒波に耐え海岸を覆い尽くすのがグンバイヒルガオの群落です。

グンバイヒルガオはヒルガオ科の多年生草本で、方言名「ハマカズイラ（浜葛）」の名のとおり、海岸の砂浜に多く見られるほふく性植物。地面を這って勢力を広げ、さらに種子は海水に浮き海流にのって世界中の熱帯地方に分布を広げること。

葉の形が相撲の行司が持つ軍配に似ているヒルガオであることからその名がついたそうで、独特の名前と形状から一度覚えると二度とその名を忘れないでしょう。

海に面している大和村の集落ではどこでも見ることができた夏の原風景でしたが、最近は埋め立てや海岸の消失により目にする機会が減りました。

ちなみに、サツマイモ属のグンバイヒルガオには、特殊病害虫のアリモドキゾウムシが寄生することから島外への持ち出しが禁止されています。



大和村国直海岸（7月23日撮影）

左のグンバイヒルガオの写真は表紙画、森和夫さん（85歳）とひ孫の町田一稀くん（小5）の撮影時に撮った一枚。足下の可憐な花を見過ごして帰り際にカメラを向けました。いつもながらの観察力のなさを恥じるばかりです。さて、撮影のモデルとなった和夫さん。実は、数年前から軽い痴呆症を患っており、それを知る一稀くんはいつもお爺さんを優しく見守っています。し

かし、この日は和夫さんが「さあ一緒に帰ろう」と逆に気に掛けていました。「見守っているつもりが、見守られる」二人の心使いを見て、本当の見守りとはこんな物なのだと感じました。後日、グンバイヒルガオの可憐な花が気になり花言葉を調べると「絆」とありました。「いつまでも家族や地域の絆を大切にし、支えあつて暮らせる村であつてほしい」とそう願います。



←バーコード読み取り機能付き携帯電話をご利用の方はここから大和村ホームページ携帯サイトへ簡単にアクセスできます。それ以外の方は直接URLを入力してアクセスしてください。
(<http://www.vill.yamato.lg.jp/i/>)

発行・編集 大和村役場総務企画課
〒894-3192 鹿児島県大島郡大和村大和浜100番地
TEL 0997-57-2111 FAX 0997-57-2161
mail:info@vill.yamato.lg.jp
<http://www.vill.yamato.lg.jp>